

平成24年度公益財団法人大阪市博物館協会外部評価【外部評価シート1・2】

館・所名	大阪城天守閣	
<p>【シート1】 各館・所の運営状況(総括)</p>	委員コメント総括	
	<p>・大阪城天守閣の使命と重点目標が明確に設定され、実際の活動内容もこれらに即しており、スタッフが総力をあげて使命を達成していることを高く評価する。大阪を代表する文化観光施設であることと、数多くの博物館資料を有する博物館としての活動をバランスよく両立させている。ただし、大阪城天守閣は重要なコレクションを持つ博物館であるということ天下にもっと周知してもよいのではないかと。</p> <p>・施設設置者(大阪市)からの委託費ゼロで、8億円に近い収入総額を上げていることが驚異的である。その背景には、観光施設としての集客力に甘えず、堅実な調査研究・資料収集と、業務を休止せず、年間で特別展を2回、常設展更新を4回行うなど、展示の充実に努めてきた館員の努力がある。</p> <p>・階ごとに展示内容を分けることにより、観光客と、歴史展示の実物資料をじっくり見たい層の棲み分けが図られている。このことにより、来館者数が多い割に、混雑を回避し、双方の満足度を高める効果的な建物利用がなされている。</p> <p>・海外からの来館者の獲得に成功しており、HPの多言語対応、音声ガイドの提供、試着体験など、様々なニーズに応える工夫がなされている。</p>	
<p>【シート2】 各館・所の特徴</p>	<p>「館の強み」の認識</p>	<p>・知名度の高い大阪城の中にあり、他館とは異なる圧倒的に有利な条件がある。また、豊臣秀吉と大阪城というテーマも明確で、層の厚い歴史ファンに関心を持ってもらえ、大河ドラマ効果も見込める有利な条件にある。</p> <p>・ブランド力にあぐらをかくことなく、質・量ともに充実した歴史資料の蓄積と、高度な専門性を持った学芸員による調査・研究に裏付けられた効果的な展示企画、講演会等の普及事業が行われており、情報発信力も高い。ただし、全国に向けて、天守閣＝博物館という事実がもっと浸透するように宣伝してよいのではないかと。</p> <p>・特別展や常設展の展示替えがマンネリ化することなく、柔軟な発想で企画されている点を評価する。</p>
	<p>「館の弱み」の認識</p>	<p>・天守閣という建物構造上の制約は、すぐには解決策が思いつかないが、天守閣の中で学芸員によってセレクトされた博物館資料を見ることができるのは他では得られない体験でもある。</p> <p>・主要駅や駐車場からかなりの距離があることは弱みとも言えるが、雄大な大阪城を実感できる強みとも言える。駅から遠いのは博物館の手に余る問題だが、初めての来館者にとって駅からの道順が分かりにくい問題は、道標の増設等で対応可能である。また、夏の日差しを遮るスペースの設置など、公園全体の管理計画の中で提案が必要ではないかと。</p> <p>・スタッフの努力により休館日がない中、展示替えが行われている。施設が老朽化していく中、来館者の安全確保の観点から、今後は休館日を設けて施設点検・補修等を時間をかけて行うことも必要である。また、展示替え作業の効率化、資料の安全確保の観点から、必要に応じて臨時休館できるよう検討してはどうか。</p>
	<p>「環境の変化」の認識</p>	<p>・大阪城を巡る環境の変化を乗り越えるブランド力を持つ館である。外的環境の変化よりもリスクとして対応策を考えるべきことは、調査研究能力と実務能力、情報発信力を持つ学芸員の継続的確保である。少数精鋭で運営されている館であるので、人材の更新がスムーズに行われるよう十分留意してほしい。</p> <p>・国際情勢や大河ドラマの影響によって入館者数が左右されるのは、館の努力の範疇を越えている。短期的な入館者数の増減は気にせず、常に新しい入館者を開拓し、館の魅力を伝えてほしい。</p> <p>・戦国・織豊期は歴史ファンの層が厚いが、大局的にみると、子どもや若い世代の歴史離れは進んでいる。歴史を学ぶことの意義が自明でなくなり、また歴史観の問い直しが行われる中で、歴史系博物館が果たす役割は重要である。</p>

<p>指定管理期間の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設面での整備、外国人向け音声ガイドの充実、国際的友好事業の実施等、着実な成果が上がっている。海外との交流をさらに進めてほしい。 ・資料収集や調査研究、講演会等の普及事業、展示企画等も、順調に行われている。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員4名のフル回転で学芸業務が行われており、過重労働でないのか気がかりである。本外部評価に書いたコメントを実現するに当たって、現在の学芸員では対応が無理な場合には、優先順位を決めて取り組むことを期待する。技術継承の問題もあり、次世代を担う優秀な人材の確保が望まれ、学芸員の増員は、極めて重要な問題である。 ・施設の計画的更新、各種スペースの確保、いずれも館運営において必要な事項である。施設設置者(大阪市)においては、館の状況、館の成果等を十分見極め、タイミングを失することがないように予算措置を行うことを期待する。 ・多様な観客が多数入場する施設であることから、観客の安全確保には最大限の配慮が払われる必要がある。問題が起きる前に対策を打つ観点からも、年末年始以外に休館日を設ける必要がある。休館日を新たに設ける際には、大阪歴史博物館で大阪城天守閣の資料を公開するなどして、大阪城天守閣の博物館資料を見たい観客の要望に応えることも考えられる。 ・大阪歴史博物館、大阪市立大学とも協力して、江戸、明治以降の東京中心的な歴史ではなく、大阪から日本の歴史を語り直していくという心意気を持ってほしい。